

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：林道費

事業名 白山林道利用促進事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林保全課 水源林保全係 電話番号：058-272-8496

E-mail：hasebe-tatsuya@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 27,500 千円 (前年度予算額：27,500 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	27,500	0	0	0	0	0	0	0	27,500
要求額	27,500	0	0	0	0	0	0	0	27,500
決定額	27,500	0	0	0	0	0	0	0	27,500

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

- ・白山林道は昭和49年に森林開発公団から岐阜県に、昭和51年に岐阜県林業公社（（公社）岐阜県森林公社）に移管され、昭和52年に供用を開始した。
- ・平成30年度までに361万台（累計）が利用してきたが、平成6年をピークに利用台数は減少傾向にあり、平成24年から26年までの3ヶ年の平均利用台数は62,521台となった。
- ・白山林道の利用台数の増加に向け、（公社）岐阜県森林公社、（公財）石川県林業公社、白川村、白山市などと連携してイベントを開催するなどさまざまな取り組みを行っている。
- ・今後も広域的観光道路として積極的に活用していくため、平成27年から白山林道の新愛称を「白山白川郷ホワイトロード」とし、通行料金を約半額に値下げした。
- ・料金の値下げ及び積極的なPRにより、平成27年から平成30年までの4ヶ年の平均利用台数は64,293台へ増加したものの利用料収入は減少した。また、昨今の豪雨災害やコロナ禍の影響を受け、利用台数及び利用料収入の減少が見込まれることから、（公社）岐阜県森林公社の白山林道会計に不足が生じることとなった。
- ・こうしたことから白山林道を適切に管理運営していくため、財政的支援が必要である。

(2) 事業内容

【補助対象業務】

白山林道維持管理運営費用（人件費、旅費、需用費、料金徴収委託料等）

【補助対象及び補助率並びに補助限度額】

維持管理運営費の10/10以内

(3) 県負担・補助率の考え方

白山林道は、森林開発公団から岐阜県、そして林業公社へ移管されており、監督官庁である岐阜県が（公社）岐阜県森林公社の事業運営に支障のないよう支援するのが妥当である。また、林道利用者の増加は、岐阜県の地域活性化、観光振興につながる。補助率は、林道の管理運営に支障を来さないよう、不足分を補助するため10/10とする。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	27,500	(公社) 岐阜県森林公社白山林道事業管理運営費に対する助成
合計	27,500	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第4期岐阜県森林づくり基本計画（案）

(2) 国・他県の状況

料金の見直しについて石川県と合意済み。

(3) 後年度の財政負担

白山林道の運営に支障を来さないよう、後年度においてその支援が必要不可欠である。

(4) 事業主体及びその妥当性

事業主体：（公社）岐阜県森林公社

妥当性：白山白川郷ホワイトロード管理者

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	白山林道利用促進事業費補助金
補助事業者（団体）	公益社団法人岐阜県森林公社 (理由) 白山林道管理者であるため
補助事業の概要	(目的) 白山林道の運営基盤の安定化 (内容) 道路管理者に対する運営費補助
補助率・補助単価等	定額・ 定率 ・その他（例：人件費相当額） (内容) 維持管理運営費の10/10 (理由) 林道の管理運営に支障を来さないため
補助効果	白山林道の運営基盤の安定化と利用台数の増
終期の設定	終期 令和9年度 (理由) 白山白川郷ホワイトロード経営改善計画の終期

(事業目標)

・終期までに何をどのような状態にしたいのか

白山林道の利用料金値下げによる、（公社）岐阜県森林公社の白山林道会計の収入減額により白山林道の運営に支障を来さないようにするとともに、白山林道の利用台数を64,000台とする。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R1)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R9)	達成率
①白山林道利用台数	66,000	42,194	64,000	64,000	64,000	65.93%
②						

補助金交付実績 (単位：千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
	27,500	27,500	27,500	27,500

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> 取組内容と成果を記載してください。 コロナ禍による行動制限の影響により利用台数は8,546台であった。
	指標① 目標：64,000 実績：8,546 達成率：13%
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍であったが、利用者数は令和元年度ベースの42,194台まで回復した。
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____%

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 3	白山林道を広域的観光道路として積極的に活用していくため、新愛称を決定し通行料金を値下げした。利用台数増加による観光客誘致が見込まれる一方、収入が減少したことから、事業を実施しなければ白山林道の運営に支障を来すことになる。
<ul style="list-style-type: none"> 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満) 	
(評価) 3	愛称変更及び料金値下げについて、積極的にPRを行った結果、料金値下げ前3ヶ年の平均利用台数は62,521台であったが、値下げ後4ヶ年の平均は64,293台に増加しており、期待以上の効果が得られている。
<ul style="list-style-type: none"> 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 2	経営改善計画に基づき、事業の実施方法の効率化は図られている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> 事業が直面する課題や改善が必要な事項 昭和52年の供用開始後、40年以上経過し、補修・改良に毎年多大な経費が必要となっている。また、利用台数は供用期間(特に土日祝日)の天候や景気動向、燃料費の価格に左右される側面を持っている。

(次年度の方向性)

白山林道の運営を安定化させ、利用台数の増加を図るためには、道路管理者である(公社)岐阜県森林公社への支援が必要不可欠である。
--